22

カウンターにお持ちください

2011年01月06日 11：40：50

入館証番号：

Call Slip

＜請求票＞（控）

書名
資料名： 支那を知れ
巻次 ：
著者名： 後藤朝太郎 // 著
出版者： 雄風館書房
出版年： 1938
大きさ： 19cm
頁数 ： 263p

所蔵館 ： 中央
所蔵部署 ： 1階資料お渡し・返却カウンター
配置場所 ： 1/75A 中)MB2書庫A
資料ＩＤ ： 1122053382

請求記号
2922
161
38

目次 1～8.
写真（全8頁）
本文 12～17
64～66
140～143
154～155

目次

支那の興味……一
序　說……二
支那を知る第一義……二
支那の興味は日本との比較から……五
事變後の文化工作……九
支那のあこがれ……一二
支那大陸行脚……一九
序　說……二〇
支那大陸の地理……二〇

日本に見ない山川氣象……二七
大陸住民の古今……三三
支那の社會と家庭……三九
國際生活の試練……四八
水村山郭の支那宿……五二
經濟戰の第一線……五七
戰爭は商取引の變形……五九
人間到る所青山あり……六三
包容力の日支人比較……六四
上海の田舍……六六
衣食住の同化……六九

支那風俗

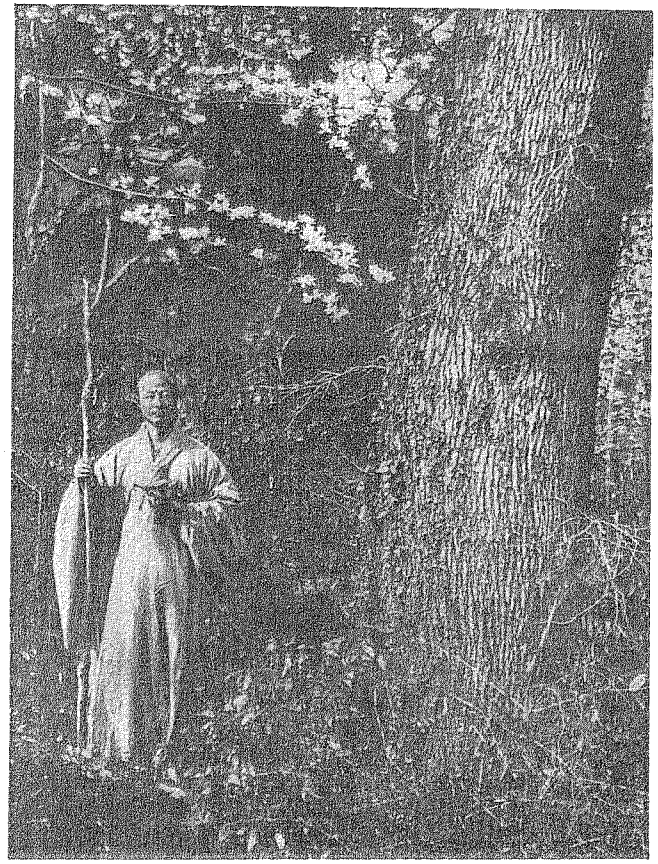
……七一
〇日本から見た民國の風俗習慣……七二
衣食住に見る風俗の特徴……七七
大陸人の風懷……八四
身の廻り裝飾趣味……八九
支那美容術の奇習……九三
支那風呂(浴堂)の清趣……九七
支那の理髮店……九九
支那化粧用具……一〇〇
雄大味の廣告……一〇二
長江々邊に見る街衢の明るみ……一〇四

民國人の日常生活……一〇九
序說……一一〇
生活の目標……一一三
生活方法の上下を問はず……一一九
油斷なき自己の建設……一二六
支那生活に見る自治……一三〇
經濟生活の要領……一三四
訓練された共同精神と海外進出力……一四〇
秘密嚴守の常識……一四三
國家よりも社會重視……一四七
脫俗せる風味高し……一四九

冠婚喪祭に見る習慣……一五
新らしき國民性……一五四
民國の船……一五五
無駄のない支那家庭……一五六
船の上の生活と濁流……一六二
異情支那を廻りて……一六五
半裸より長袖まで……一六六
蛇の吸物と酒池肉林……一七一
月下の破屋と河南の望樓、穴倉……一五
碼頭の細民風景……一八一
難破船のさかしま救濟……一八七

デツキ・パセンジャーの臭氣……一九一
彼南ナーサム・ロードの華僑情趣……一九三
到る所青山の氣分……一九五
遺骸の棺柩か阿片詰のそれか……一九九
近所泣かせの讀經奏樂……二〇二
死線を越えた輕業師のあぶら汗……二〇四
南支那海賊の功罪、土匪の功罪……二〇八
甘肅、雲南の雲水行脚……二一一
山寺に見る禪僧の保護色……二一三
文化超越の穴居民……二一五
流言蜚語の利用……二一七

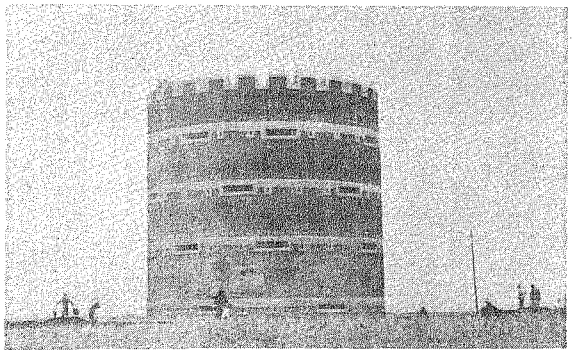
方向が立つ暗黒面……二二〇
支那奥地夜半登山の印象……二二一
長久の支那……二二五
摑み所のない支那世相の核心……二二六
江蘇の田舍……二三一
車夫公の醍醐味……二三八
一種の運命觀と快樂主義……二四一
歡樂主義……二四三
珍奇な支那女の風俗……二四八
阿片國支那……二五一
性權の問題……二五六



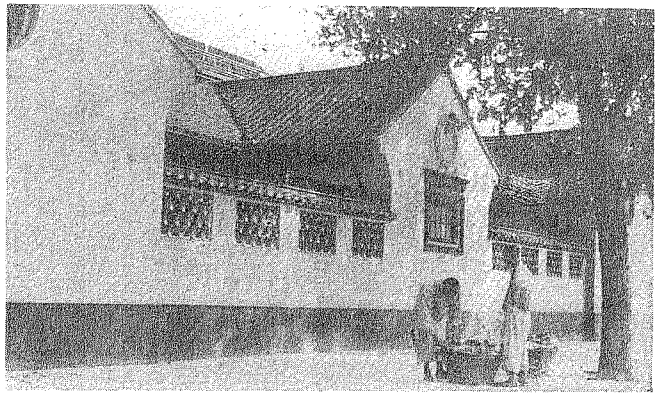
支那の禪僧　空院落花深き處、靜寂を味ふ事幾年尚和獨が
脫解を欲質物はに下の花山木老。る居てしとんねつぼり
るでし話對と僧老ね訪を門山。いしか懷が活生寺山たし
賢棲麓南山監省西江は圖。りなか幽聲く啼の僧法佛とる
寺の住持振り。

迷信打破の强行とその裏表……二五八

（目次終）

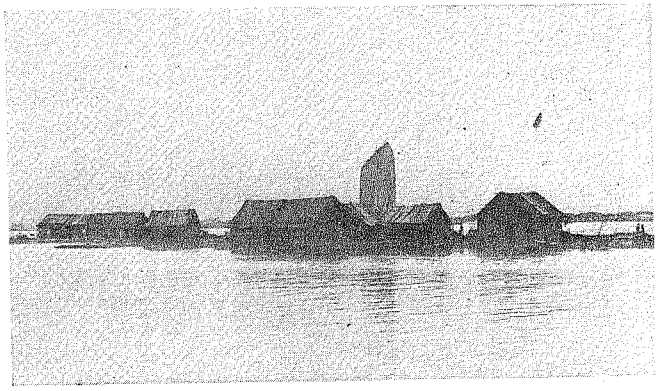


蔣は府政民國いなた持を力軍海　堡碉用軍の外郊口漢
大に設增のカチート壘砲塞要に地重各で下一令命の石介
な作工のゝて立取でま稅苛のきさ年十三二 。たつあで童
。いなしを顏いよは民良らかだの

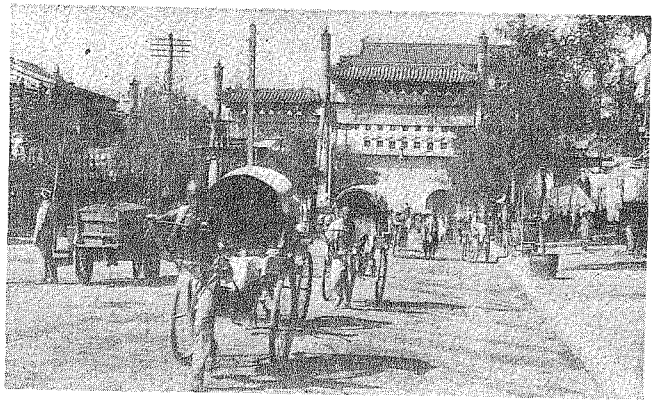


れつに性厚重の物風土風の陸大　觀外の宅住流中京北
へ奥へ奥か回幾はに庇中くしゝ重もひま往の民市は內城
床又が窓しかすに壁の聖白 。る見を計設たれさ返り繰と
（見所樓牌四東）。いし

童彎車下彎車上らか市沙北湖　狀慘の濫氾大江長北湖
大し達に度極水增の夏に毎目年十六五はてけかに帶一市
呼鼻阿れ流に共は屋茅畜人し沒を根屋家田 。す化と原海
（見所市童）。ずか付つ追も喚

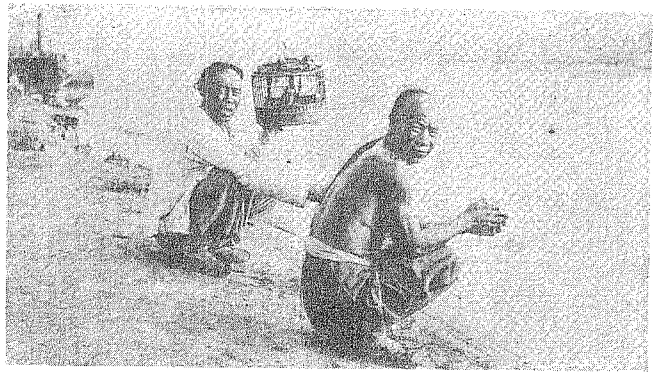


るさ出りくらか帶地岳山地奥の支中　し流筏物名の江長
もぶ及に蚌千三れらて立み組に筏大で上湖庭洞は筏小る
半にる下を江長り作を村上水夫筏のけ掛屋小 。るあがの
（見所南湖）。だりた然平もるかか歳



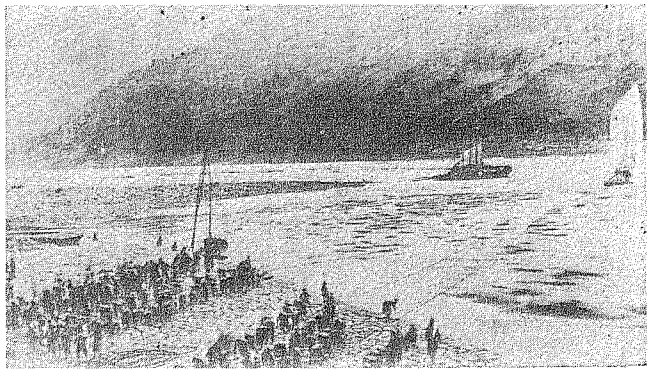
北京ストランウロイパ上の洋車風景

東四牌樓（東四牌樓）は王府井大街や天安門大街などの人力車（洋車）が増加し伸び行く日本人を乗せた人力車は日に日に共とりたゝかいこゝに判もれるる。



北支天津白河畔の小鳥籠　農夫の心を慰めるもの

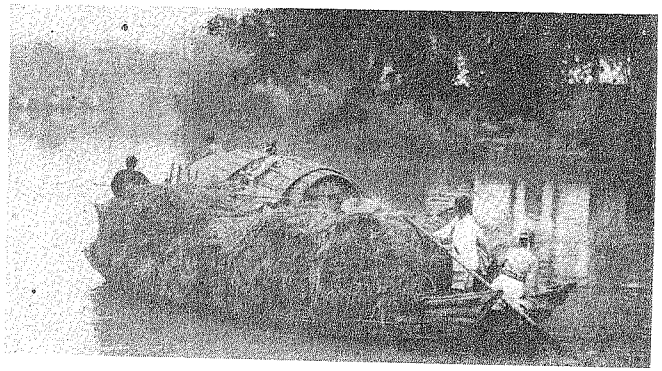
日本人は苦労をしまして食後は一休みまして又籠鳥に水をあたえて小鳥の鳴き声は世界共通な言葉の如く人間の苦労を忘れさせる。



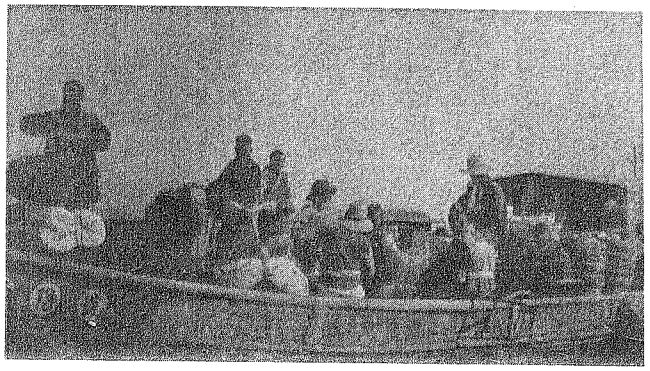
四川三峽の壮観　宜昌巫山風景峽中峽下

一陸江の里千は一日に下りしてゐるあれは云とる下りの速い船は帆をあげて風を利用し竹竿を使ひ人夫の群が曳いてゐるすでまとこるせら張引で（見所中峽）。

三千年の長期に亘る穴居生活　元始的な草根木皮の秘薬で發達せさる支那奥地南河南山西陝西の民族の居穴に住居してゐるトーパア化文洋西と隨處に見る穴居生活（見所州鄭）。るあが觀るて



福建の女働き振り　福州ンミ（閩）江に
に分自を賣商輸運し棹に船がちたんきみかたへ進しさを
婆物氣意のそ。す中熱に分氣治自たし越超らか治政み營
（見所尾馬）。るあが者き



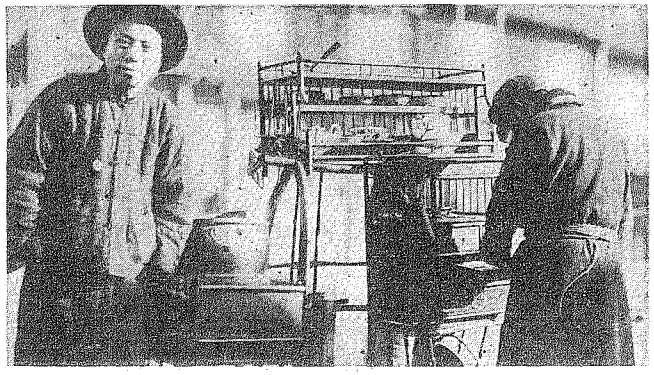
亭蘭又に興紹下山稽會　船合乘の上江るす界を越と吳
渡を江塘錢ゝつひ昧を驗體の舟同越吳はにるけか出とに
にけだたゐてつ難に中の客吳も者著の帽那支服那支。る
（撮所橋星南）。だ量無概感

市店露る見に末場の街那支
たね兼を袋ねかな切大もりよ命
雜品り廻の身め始を（兜肚）卷胴
を民細し列陳くなとれく何を貨
。りぶ買賣の人商小ぶ呼

江浙蘇江ゆクーリク水なかた
た然蒼色古むらか蔦　角一の村
りくつそ昧趣本目に上の垣石る
船のり賣物がひま住るた酒蕭の
。るゐてい牽を心の頭

東京都立中央図書館
支那の面影

味



大衆向き露店やしめ　アンタンロ（鍋飩）シマウ（米燒）
路でのる出に店露の町横街那支夜毎は珥料輕手おめ始を
食立て當き引を籤みおてつ行てつ撮を幣銅ちた供子の地
（見所坊祿百海上）。るすを

天路　店物べたの民細るけつき牽を供子の傍路海上
る來てつ集らか朝は店物べたるれか開にリ邊末場や中の
叟童は心童きな罪。るゐてせさをへ拵腹で錢三二に供子
。るれらせ化朗明に此くなとこゝるか欺

り、又物價が高くなつたりすることを蛇蝎の如く嫌つてゐるのである。むしろ文化工作など後でもよろしいから、物が安くあがること、安く生活の出來る事を念願としてゐるのである。產業を起してその生計をゆたかにしてやること、交通運輸を便利にして安く動かれるやうにしてやること、國防を十分にして眞に兵亂のあとを絕つてやる事、これを希望してゐるのだと云つてよろしいのである。

支那のあこがれ

支那に興味を持たず、支那の人に友達を持たず、支那の山河に憧がれを持たず、そして唯支那は日本人の云ふ通りになる處だぐらゐに見縊つてゐるものがあるとすると、これは誤れるも甚だしい見方である。支那はさかなにしても大味のすると同じやうに、人間にしても、山河にしても皆大味のするやうな感じがある。すべてを假に、日本式にガツチリとまゐる所のやうに見て、日本々位に考へてゐたら頓でもない失敗を招くであらう。

支那の人は大陸で人となつてゐるだけに、人柄がゆつたりしてゐる。コセ〳〵せぬ。清濁併

せ呑むだけのゆとりを有してゐる。チヨコマカするものには、させておく。ガジヤ〳〵するものもその通りさせておく。とりたいものには取らせておく。そこを無理にどうと敵對もせぬと云ふのが本來の立前のやうである。ミエンツ（面子）の爲めに張り合つて來ることもあるにはあるが、しかし元來云ふと、その日〳〵の事はよく努力をすると同時に、又諦めもよろしく、まあどうにかなるだらうと運命に合流し、思ひ切りのよい處が多分にあるのである。いくら麻雀に負けて失敗をしようが、ステテコテンにならうが、一向に殘念がらぬ。いつも光風霽月であつて、くよ〳〵せぬ。之を取り返すためその翌日深入りをしたり、又負けてその翌々日に更に深入りをして、とゞのつまり二進も三進も行かなくなると云ふやうな執念深い勝負まで支那人はつゞけない。先づあつさりと第一回の負けを見たときその邊で止めてしまふ。どんなに大きく負けてもそれを根に持たうとせぬ。誠にあつさりしたものである。そこにまゐると日本人の方がよほど執拗であり、思ひ切りがわるい。支那だつて親の仇打ちはせぬでもない。孫傳芳あたりでも天津のお寺でその爲めに女の手でやられ、はかなく倒れてしまつたのであるが、しかし支那は原則的にあつさりした人が多い。つまり物にこだはらず、囚はれてもゐない。すべ

てがそのとき限りと云ふのである。

日本では長期抵抗などゝ云ふと大變な事のやうに之を支那の人が考へてゐると思ふかも知らぬが、あちらの人は平素でも年中非常時の氣分でゐるのだ。長期以上の心掛でゐる。堯舜禹の時代以來常に非常時氣分でゐるのだ。それでなくては當てになる中央政府だとか王朝だとか云ふものがないのだから、誰れでも、自分自らでしつかりやらなくてはならぬと云ふ考でゐる。こゝに本當の自治氣分がする。又自衞氣分でもある。之を特別に長期とか何とか云ふのはをかしいくらゐにしか見て居ない。氣分にゆとりがあり、どうにかなるだらうと云ふ樂天思想の外に持つて行つてこの長期自治自衞の氣分がある。こゝの處を日本人はよく見ておかなくてはならぬ。さらばと云つて、支那の人は日本人をどこの馬の骨かと云つた風に冷たく取扱ふことはせぬ。民衆たちの腹のうちは四海のうち皆兄弟でゐる。大味ではあるが、どことなくそこに憧憬の氣分の駿らるゝものがあるのである。

自分はやゝともすると支那の民衆に好意を不知不識のうちに持ち、又その肩をもつ傾向がある。これと云ふのが個人的に矢張り久しい間の知人があり、好朋友、老朋友があるによるのである。

山川風物、友人たちにあこがれを持つときは、おのづから肩を持つことになりがちである。たとひ蔣政權に對して日本は國是として懲戒を加へてゐても、民衆そのものは罪はないのであるから、そこに嚙み分けをする必要があるのである。

支那に憧れを持ち、支那の人に友人を持ち、そして支那の風物に親しみを持つてゐる日本人が多くなればなるほど日支兩國は接近して來る。そこで、あちらに渡つてゐる者は一日でも永く支那大陸の土を踏んでゐたいと云ふ氣持が胸に迫つて來る。中には支那事變で日本に止むなく引揚げてゐても內心は支那の土をふみたく念じてゐる爲め、天津でも、上海でも、南京でも又杭州でもいざ歸つてもよいといふ時が來たとなると、とる物もとりあへず妻子は後で呼びよせるとして、ともかく歸つてまゐる。大味ながら支那に引つけられ吸ひつけられる氣持がするからである。恐らくかうした心持の友人知己は、日本人の在留民の間に自分達と同感のものが少なくないと思ふ。人はやゝもすると、溫室に咲いたチューリツプのやうになりたがる。がその式の日本人は支那のやうな荒波荒風の吹き荒む天地に向かないのであらうと考へる。むしろ

自ら開拓し自らパイオニアとして切り開いてまゐる人だけしかまゐれぬわけである。その種の人はまゐつても後方部隊として働くことになるであらう。支那のことはその日本にゐようと又支那に渡らうと、いつも心に人一倍の興味を持つてゐるくらゐでは始まらぬ。人からつけられた付け膏藥では駄目である。又お役目的の考でしようことなしにやると云ふのも駄目である。その代り、乘りかゝつたら最後、どこまでもやり續けると云ふ粘る力の必要なことは云ふまでもない。

支那の興味と云ふのは政治外交方面も結構であるが、實はあちらの人々の心境から考へて見て、あちらの民情、風俗、習慣、信仰と云つた式の精神文化方面に觸れたことを主としてこゝに考へたいのである。共にあちらの人とポスサンヤオ(拔絲山藥)を賞し、共にポオツ(餺子)を頂くと云ふやうに、料理でも何でも卓を共にして談笑裡に理窟を超越してやる所に來てゐるものでなくてはならぬ。又日本人が北京なら北京、南京なら南京に向ふと云ふ以上は、そこまで隔てなくしてやれると云ふものにならなくては行き甲斐がない。あの大陸生活に、不潔だとか几帳面でないとか云ふことが一々氣になつてゐるやうでは、支那人と足並みの揃ひかねる人

である。日本にゐるときと同じやうな事を神經質に考へてゐるやうな人は、日本人であるだけにシツクリ來ぬとあちらの人は云ふ。シツクリ來ぬ人間であるなら何かのときオミツトせらるるに相違ない。本當に興味を持ち得ぬ人は、興味が本當に湧き起らぬ人であると事へる。人おのおの好むところが違ひ、又性分が異つてゐるのであるから一概には申されぬ。けれども、自ら期せずしてその大味のわかるところまでの境涯に進んで頂きたいものであると念ずるのである。

の話から、日本から來る品物はどうもこの邊では商賣にならないといふ話に及んだ。どういふ風に向かないかといふと、第一これですと、伊勢崎銘仙を戸棚から出して來る。指を突込んで見るとベリ〳〵破れる。日本の工業はこれだからダメだ。染料の研究もして居ない。北緯三十度四十度で使へるものだけで、赤道直下で使へるといふ研究はして居ない。外國品はこの通りですといつて、引張つて見せたが、成る程ピンと耐へる。さういふ點からいつて見て、日本は研究の方法が十分ついてゐないといふことが分る。陽氣な氣分で出ようとするには、あらゆる條件が備はり、心配のないやうにしてゐないと、陽氣な氣分にはなれない。

包容力の日支人比較

その中にまた大事な點は　日本人同士が互に悪口をいひ合ひ、同業者の悪口を外國人に聞えるやうに云合ひ共倒れになることである。支那の人はさういふ場合に何にもいはない。私は知りませんといふ。日本の人は、彼氏は今はうまく行つてゐるが學校では落第ばかりして居つたと、そんな事はいはなくともよい事をいふ。それで自分の地位が高まるやうに思つて居る。そ

こに行くと、支那の人は一人でも多く同志を集めて、束を大きくして事をやらうといふ氣持ちでゐる。それが支那の人の特長美點とするところである。

その點で支那ではパン(帮)——これは組合である——鄉里を同じくする同志、商賣を同じくする同志、或は勤先を同じくする同志、會社員は會社員、軍隊は軍隊。學校の先生は學校の先生といふやうに、その間に有無相通じ、冠婚喪祭も共にやる。或る地方の如きは如何に政府の役人が何といはうともそれを突き飛ばす。役人が苛斂誅求でもやると、一團となつて槍を持つて來てやつ付けてしまふ。えらい力を持つて居る。さういふ地方のパンの團體の固まつて居る所には自ら頭がゐる。アメリカが一回も排米を被らぬといふのはパンをうまく利用して居るからで、日本が排日を被むつてゐた一因はパンを利用してゐなかつたからである。さういふやうに裏面には面白い事情が澤山ある。

日本では假に紡績會社なら紡績會社で組長位の處に落度があるとすると、重役會議の上でこれは馘首だといふ掲示を出す。するとその者は顏に拘はる事だから種々と會社が悪いやうに宣傳して同盟罷業をやる。そしてその損害は何十萬、何百萬圓にも達するといふやうなものだが

支那の人の紡績會社ならそんな事はしない。誰か悪い事でもすると、その上の者を呼んで御馳走をして、實は斯ういふ事について相談をしたい事があるんだがと、小使錢をやつて、一遍彼を呼んで話をしてくれ、以後あゝいふことをすると困るからといふ。パンの關係で長老はそれを引受ける。引受けたらば大丈夫である。もう次からそんな事を繰返さないから、仕事は相變らず滑らかに進んで行く。日本人は癪に障ると直ぐ痛めたりするくせがある。その氣付ちを出すから事が大きくなるのである。

さういふ事についての圓熟といふか、包容力といふか、それは日本人には殆どないといつては見縊つたいひ方になるが、そこに行くと、支那の人だ。包容力といふか、圓熟といふか、實にねれたもので、支那の人が段々と民衆的に基礎が固まり海外に伸びて行く底力の衰へないのもそこにわけがある。しかし國家を組織するといふことは又自ら別問題である。

上海の田舍

以上申したやうに、支那の人は總てに包容力を有ち、根氣を持ち、その他いろ〳〵の特徴を

有つて、個人的にも民衆的にも大いにやつて居る。上海のやうな三百八十五萬の人口を有ち、全盛の時には六百萬も居つたといふ、さういふ所に於ては、租界といはず、城内といはず、八割半、九割までが支那の人であるから、その支那の人の總ての固まり方、努力の仕方といふものは並大抵のことではない。今は事變下であるから別であるが、上海に於ける支那の人の努力は新嘉坡にも匹敵する。新嘉坡は人口が四十萬、その中三十八萬が支那の人で、あそこの稅金は殆ど支那の人が出して居るが、こゝで下手をすればこの支那の人が印度に手をつける恐れがある。だから英吉利も丸で腫物に觸るやうにして機嫌を取つて居る。さういふ咽喉首を握つて居るのは新嘉坡に於ける支那の人である。

さういふ底力のある努力が上海にはちやんと現はれて居る。その上海が今日日本からいふと支那の表玄關となりあそこへ伸びて行き、あそこでバロメーターを上げるやうにしなくてはならぬ。そこを考へて上海を見ると實に愉快である。上海には小さなアメリカの軍艦がいつも相當に來て居る。長江方面にもアメリカの軍艦が隨分來て居る。そして經濟方面では巧く手を握つてゐる。大分この頃は旗色が何とかいふけれども、まだ〳〵盛なものである。先年渤海灣の

支那の人の經濟生活には、自分だけでなく全體が大きくならうといふ氣分と太ツ腹がある。又そこが美しい處である。それに就いて一番大事なことは人の惡口をいはないこと、人の事をこき卸さないこと、さうして全體のレベルを高めて置いて大きく仕事をすること、これが支那人の經濟生活の第一義であると見られる。

訓練された共同精神と海外進出力

さういふ風であるから、支那の人の共同生活の訓練されて居ることは、よほど掘り下げて見なくてはならない。ならないといふだけでなく、日本人があちらに伸びる時、それが常識の上にとり入れられなければ困るのである。

日本は明治維新以來海外發展のことを可なりやかましくいつて、この頃では大抵の學校が植民政策だとか、移民史だとか、種々と海外に力を伸ばすことについて講座を開いて居るが、口でいふだけで自分自ら行かうといふ人が少ない。その講義を聞いた人も、自分は行かうと思ふけれども兩親が出してくれないとか、或は自分が決心して支那へ行かうとすると、結婚の話が

オジヤンになつてしまふのであるといふ。だから遠方に出るといふことになると、殊に支那にでも行くといふことになると、悲觀せざるを得ないといふのだ。

所が支那は國が始終混亂して、自分の先祖が祭つてある寺にも兵隊が入つて來る。自分の家にも馬賊が入つて來る。これでは新嘉坡へでも行つた方がよい、いや爪哇、スマトラの方がよいといふやうな譯だ。況や金でも澤山持つて歸つたとなると、その筋から搾り取られるから外國で暮した方が增しだといふ氣持になる。支那の人々が海外發展をするといふことは、要するに母國の香ばしくないといふことが主な原因であるらしい。

それから今一つの原因は體力の問題である。支那に行つて多くの支那の人に直接に觸れて見ると、支那の人は頸が太い。とんぼ(蜻蛉)の頸みたやうなのは少ない。頸が細くて頭部が太くつてテヨコ〳〵して居るといふやうなのは海外進出には向かぬ。頭か頸か分らないやうな大きな、大入道みたやうな恰好の人が體力の點に於ては海外進出向きである。神經質の人は海外に進出する力があつても早く參つてしまふ。つまり體から來る迫力の問題になるのだ。

海外伸展の成否は心身の迫力によること云ふまでもない。迫力を十分持ち得ないものは、途

中でへたばる。支那事變後日本人はどこまでも支那に伸びなくてはならぬといはれるが、果して日本人の一般殊に青年あたりの氣力に、十分の追力があるかどうか。追力といふうちには粘りのきく持久力が伴はなくては嘘だ。支那語を話し、支那語のうらにひそむ民情風俗の理解がなくてはうそだ。兩國の花火のやうに一時パッと美しく行つても、末長く續かなかつたならば意味をなさぬ。武力戰に於いて日本は支那に勝つたが、武力以外の追力、粘り、根氣によつてあとを東洋平和の大眼目にかなふやうやれるか。之を導いて行かねばならぬ處に來てゐる。

とかく指導指導と日本人は云ひ、又それが口癖のやうにくり返されてもゐるが、一體その指導に伴ふ粘り、根氣はどこまでも用意されてゐるのか、どうか。粘りの裏に體力とかねが支度されてゐるのか、どうか。南洋方面に廣東福建の支那人が、三代も五代もかけてあの通り十分根をおろしてゐるが、あの粘り、あの根氣、あの持久力を日本の個人個人は持つてゐるのであるか。自信はどうであるか。法律だの、軍備だの云ふ方面でなく、個人個人の心構へと、その心身の用意について、こゝに靜かに反省して見たいのである。日本の教育訓練はこゝに重點をおいて着々進まなくては嘘だと思ふ。馬來南洋方面のことも氣になるのだが、更に手近かな支

那の戰後の工作について特に意を致すべきだと思ふのである。

以上の話は支那民衆の積極的に外へ伸びる方の事であるが、次に支那の人はさういふ事をする半面に秘密をよく守るといふ。その方面の事を少し例を擧げて見る事にしよう。

秘密嚴守の常識

仕事をして居る場合に、重要な秘密を何でも彼でもパア〳〵言つてしまつたのではその仕事は成就しない。そこへ行くと、大陸人は不言實行。殊に自分たちで言はぬと約束したことは絶對にいはない。その訓練は學校で教はつたのではなく、家庭で教はつたのでもない。社會生活から學んだ訓練であると思ふ。子供同志でも同樣である。これは要するに、自分及び自分の仲間をして大きく太らして行きたいといふ念があるからである。

この點で上海などで問題になるのは、日本の銀行家などが、誰は幾ら金を預けて居るといふやうな事を洩すことである。だから支那の人は西洋人の銀行に預金する方がよいといふ。秘密を守らなければならぬのに、さう無雜作に人に洩らしては、信用を無くしてしまふわけだ。

ことになる。

新らしき國民性

中華民國でこの頃最も頭を持ちあげて來た著しいことは、その國民性の上から日本を背景とする新らしい政權の出來たことである。日本の人は支那の內部がゴタ〳〵して居るから野蠻だとして見縊らうとする。けれども、あれは持病のやうなもので、內部は一つの商賣、取引のやうなつもりで、磨擦をやつて居る。ゴタ〳〵して居るから外へは出られないといふことにはならぬ。外へ强く當るといふ事は日本に對しても、あの通り長期抵抗で兎も角も、もがきながらやつてゐる。英吉利の如きは曾てグーの音も出ないまでになつて居たのである。當時香港の總督として來任した人は非常にやはらか味のある、支那氣分になり切つて居るやうな人で、その人が適合主義でやつて居たが、これは印度の方の影響も恐ろしいので出來るだけ國民政府の御機嫌を取らうとする。日本に對しても、これ以上支那と事を構へてくれては困るといふ氣持でビク〳〵して居たのである。長江沿岸に於ける英國人の氣分もその通りである。それまでにさ

せるやう支那の人にはスツカリ取入つて居たのである。

民國の船

日本人は直ぐ支那は敗戰してゐるぢやないか、大きな船がないぢやないかといふ。支那の人にいはせると、二萬噸、一萬六千噸、そんな船は要らぬ。商賣をしたければ外國に船は幾らでもある。自分の國で船を拵へて資本をねかす必要はない。加奈陀でも、アメリカでも、日本でも大きな船を拵へて呉れて居る。所がその船に乘つて涼しい顏をして居るのは中華民國の商賣人ではないか。だから三千噸以上の船は拵へない。古い船でもよいからお客をうんと載せて、小さい船でウンと利益のあがるやうにして居るのがコツである。さういふ事は文明國を以て氣取つて居る國では出來ない。いづれも大きな船があると自慢して居るけれども、拵へながら競爭ばかりして居るのが實際の現狀ではないか、と言ふ。だから裏の方でグン〳〵支那の人は他を利用してばかりゐるといふ事になる。

さういふ支那の人の行き方を見て居つて、今度はその家庭に入つてみる。さうすると支那の